



《発行所》
 青山同窓会
 〒951 新潟市関屋下川原町2-635
 新潟県立新潟高等学校内
 TEL 025-266-5268
 FAX 025-266-5268
 《編集、発行人》
 教 井 栄 一
 《印刷所》
 オリオン印刷 ㈱
 〒950 新潟市南出来島1-19-1
 TEL 025-283-2151
 FAX 025-283-3804

平成7年度
青山同窓会総会
新会長に 50回 上村光司氏!

一九九五年七月十四日(金)
 ホテル新潟に於いて開催。

会長、校長の挨拶に続いて議
 事に入り、(イ)会務報告、
 (ロ)決算(ハ)予算を承認。

(ニ)会則変更では、副幹事
 「十二名以内」を「十五名以内」
 に、監事「二名」を「三名以内」
 に改正を承認。(ホ)役員改選
 については、長らくご苦労いた
 だいた鈴木正二会長の退任を承
 認、新しい会長として、50回上

村光司氏を選任。副会長に51回
 厚地 武氏、60回小林 亨氏、
 69回教井栄一氏を選任。幹事長、
 副幹事長、監事は、会則にのつ
 とり、会長の委嘱により、総会
 で承認され、別掲のように決ま
 りました。なお、鈴木正二氏に
 つきましては、総会の承認によ
 り、顧問に就任いただきました。
 滞りなく議事が終了し、引き
 続き恒例の懇親会に入りました。

ごあいさつ

青山同窓会会長

50回 上村光司



明けましておめでとうござい
 ます。良い年になりますように。
 皆様のご清勝を願っております。
 さて、私、昨年七月の総会で
 鈴木正二大先輩のあとを受けて
 会長の大役を勤めることになり
 ました。七十歳を過ぎて未熟
 者、粗忽者で、恥ずかしいので
 すが、せいぜい相務めさせてい
 ただきます。

青山同窓会は、平成四年の母
 校百周年を機会に、一段と結束



が固くなったように感じていま
 す。同窓会名簿作成や寄付金取
 りまじめに各期幹事はじめ皆様
 方がご尽力くださったのが、利
 いていると思います。

わが同窓会の目的は「会員相
 互の親睦を増し母校の発展を図
 る」ことにあります。その親睦
 を増す方法として、何が良いか
 と、役員の方々と相談中ですが、
 基本的にはコミュニケーション
 をよくすること、そのために会
 報作りについてその力を入れるこ
 とにしました。会報は一にも二
 にも原稿を多く寄せていただく
 ことから始まります。十人近く
 の会報委員を委嘱して、いろいろ
 アイデアを出し合っていただ

いているところでず。

次に若い年次の皆さんに対し
 て同窓会も総会となると、若い
 間は何となく足が向かないのは、
 私自身覚えのあることですが、
 五年、十年はすぐに経過します。
 早いうちに期の幹事を定めてお
 かれるようにお願いします。

今度ゴルフの同好会で「青山
 OB会」が誕生します。内容は
 別稿のとおりですが、ほかにも
 囲碁をはじめ、同好の方々のお
 集まりがあるようで、それを核
 に拡大していけるのではないかと
 考えています。

正月お目当てのラグビーは残
 念ながら花園行きが成りません
 でした。実は十年前に花園初出
 場となったとき、皆様から寄せ
 ていただいた遠征費の残り千八
 百万円を母校のスपोर्टス基金に

して、その利息を活用してきた
 のですが、このところの低金利
 で不如意になっていきます。それ
 でこの際、花園行きを機会にス
 ポーツ基金の拡充も思ったの
 ですが、先走った欲張りはよろ
 しくないようでした。

母校の改築はスケジュールど
 おり準備が進んでおります。先
 日電車に乗ってましたら中学
 三年生とおぼしき少年三人の話
 が聞こえて来ました。「県高に
 入ってもずっとプレハブだよな」
 「あんまり〇〇もないそうだ
 し」「それでも校風が自由だよ」。

重ねて各期幹事はじめ皆様の
 お力添えに感謝し、ご健康、ご
 発展を願って、新年と新任のご
 あいさつといたします。

会長退任のごあいさつ

37回 鈴木正二



昨年七月十四日の総会で任期
 満了により会長を退任致しまし
 た。昭和五十二年七月副会長に

選任されて十年、昭和六十二年
 四月九十五才の天寿を全うされ
 た鍵富清一郎前会長の後任とし
 て同年七月の総会で会長に選任
 されましたが、それから四期八
 年、その間役員並びに会員各位
 の格別なご支援御協力により何
 とか会長としての重任を果たさ

青山同窓会役員一覧

顧問	鈴木 正二 (37回)
会長	上村 光司 (50回)
副会長	厚地 武 (51回)
	小林 亨 (60回)
	敦井 栄一 (69回)
幹事長	石田 瑞穂 (67回)
副幹事長	藤井 泰介 (56回)
	江口 良助 (61回)
	小田嶋寿一 (64回)
	高島 敬子 (66回)
	佐川八重子 (67回)
	栃倉 浩 (69回)
	兼校内幹事
	大森ゆかり (69回)
	藤 誠 (70回)
	福田 実 (75回)
	小島富美子 (75回)
	小林 敬直 (78回)
	砂田 徹也 (81回)
	栗原 道平 (82回)
	早福 卓 (55回)
	上杉 雅之 (60回)

せて頂きましたことに対し厚く
 お礼申しあげます。
 母校の創立百周年の記念行事
 も無事終了し、待望の校舎新改
 築等の具体案も決まり実行段階
 に入りました。私も昨年一月満
 八十二才を過ぎ、体力の衰えも
 目立ち、特に補聴器使用のため
 (次頁へつづく)

公の会合等には相手の方にご迷惑をおかけしておりますので、この機会に辞任させて頂きました。

会長在任中の最も想い出に残るものは、平成四年十月十七日の母校の創立百周年式典、祝賀会、記念行事等の実行委員会々長として十回に及ぶ準備委員会、実行委員会の協議検討を経て学校当局、同窓会、PTAのご協力により全て予定通り完了したこと。校舎新築関係で、君、金子、平山各知事さんとその他ご当局へ、早期実現に関し、PTA会長とともに五回にわたる陳情を行いその成果をあげ得たことであります。それに昭和五十九年私の副会長時代にゴルフ会が発足し、春秋二回毎年参加しシニア、レディス賞を頂戴したこともありました。二年前から体力が続かずギブアップしましたが、これも楽しい思い出の一つでした。

その他同窓会関係の諸活動のうち、会長として出席した年行事は次のようなものであります。

- 1、総会、懇親会及び後日の役員、実行委員による反省会 (毎年七月開催)
 - 2、新年会 (一月)
 - 3、役員会 (四月他随時)
- 決算、予算等総会附議事項

その他を協議
4、各期幹事会 (六月)
総会準備等を協議

5、卒業式、同窓会新会員入会式 (三月)

6、入学式、新入生保護者との懇談会 (四月)

7、青陵祭 (六月)

8、東京青山同窓会総会、懇親会 (十一月東京にて)

9、通信制部会総会、懇親会

退任のことば

元副会長 55回 和田迪雄

私こと、去る七月十四日の青山同窓会の総会をもって八年間の副会長職を退任いたしました。在任中は皆様方の温かいご指導とご厚情を賜り誠に有難く厚く御礼申し上げます。在任中の主な出来ごととして、ひとつは百周年記念事業の実施でした。

昭和六十一年度から準備に入りましたが、校内百周年準備委員会、新潟高等学校百周年準備委員会、新潟高等学校創立百周年記念実行委員会等が発足し、開催されました。

こうした準備が結実し、平成四年十月十七日に新潟市体育館で式典が盛大に挙行され、ホテル新潟において祝賀パーティー

(三月)
10、新潟市役所支部総会、懇親会 (二月)

以上ご報告申し上げ退任のご挨拶と致します。

なお会長退任と同時に総会に顧問に推薦されました。健康な間は役員の一員として同窓会の発展のため何かお役に立ちたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

退任のご挨拶

元幹事長 63回 赤羽良樹

最後に青山同窓会並びに新潟高等学校の今後のご発展と同窓生の皆様のご御多幸を心より祈念致します。

夏の総会で役員の変更が決まり、鈴木正二前会長と共に幹事長を退任いたしました。夏の間は役員一人として同窓会の発展のため何かお役に立ちたいと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

新任当初は一人もおらんかった女性役員が四名となり、顔ぶれもずいぶん若くなりました。創立百周年に向けて、皆様の一層の御活躍と母校の発展を祈っております。唯一の心残りは、ラグビー部は花園へ出場しましたが、野球部は何回か惜しい機会がありながら、ついに甲子園へ行けなかつた事です。近々に、ぜひ夢をかなえていただきたい。

副会長就任挨拶

60回 小林 亨



諸先輩居られる中で、副会長というご指名を受け責任の重さにと緊張しております。校歌「玲瓏の天」しか歌えない旧制新潟中学校の最後の生徒として、旧制中学と新制高校との繋ぎの役割を果たしたいと思っております。青山同窓会でご薫陶いただいた鍵富会長のあの枯れた、洒脱の雰囲気には遙かに遠い若輩で、もう年金年齢になっておるものの、精神年齢だけは若い同窓と同じと信じております。

若い世代の会員に、新潟高校は嫌い、先輩後輩は無論のこと、同期の人ともつきあわなくてもいいという人が大勢いることが残念です。先日花園へ行かれるかというラグビーの優勝決定戦応援の在校生、同窓生の数と、同じ全国大会出場をかけた私立高校同士のサッカーの試合の応援団の数を比較すると冷えてしまったものを感じます。

私らの時代より生徒数が多くなったこともあるのでしょうか、イイ大学へ入るための予備校化、学校行事には参加しない、必要のない授業は無視する、ノンポリを決め込み高校生活をエンジョイしたことがないという高校生ばかりとなり、友達付き合いをしているのはクラブ活動をしてきた人達だけということでしょうか。クラス会、同期会に出てもしょうがない、同窓会なんかは以ての外なんて言わないで参加してみてください。

同じ校舎で授業を受けたこと、同じグラウンドで走り回ったことが共通の基盤として、あの時出来た奴、嫌だった奴が時の流れの中でどんなに成長したかを知り、励ましてくれたり、口説き相手になってくれたりと、在学中に付き合いの無かった人と友達になれます。無機質の交際が段々多くなる中で、血の通った友達との話し合い、杯を交わすことは、渴いた生活の憩いの場ともなるでしょう。先輩とも後輩とも、青山の出身というだけで心が通い合うなものがあります。照れたり、意気がつたりは止めて、お互いの友情の輪を広げましょう。

有象無象の集まる M U Z O 会 (60 回卒) の付き合いで、私も同窓会に積極的になるようになり、同窓の皆さんのお手伝いをさせて頂いたできるようになりました。同期の諸兄に感謝しております。皆さんのご指導とご支援で、青山同窓会が益々発展するよう祈っております。

ご挨拶

副会長 69回 敦井栄一



この度、図らずも上村会長から、副会長にとのありがたいお話をいただきました。私にその務めが果たせるかどうか、心配ではございましたが、同窓会並びに母校のために是非とのことでございますので、お引き受けすることといたしました。よろしくお願いいたします。

諸氏の温かいご指導、ご協力もいただき、おかげさまで何とか大過なくその任を果たすことができました。その時の皆様から寄せられたご厚情に本当に元氣付けられ、それ以来同窓会に対する愛着が一層増したように感じております。

思い起こせば、三年前に挙行された百周年記念祝賀会の実行委員長のご指名を受け、その進行役を務めさせていただきました。何しろ初めての経験で右往左往いたしました。先輩後輩

日頃からお世話になっております皆様への恩返しのため、副会長職の末席を汚させていただきます。皆様様の相変わらぬご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

幹事長

就任挨拶

67回 石田瑞穂

このたび、上村光司会長の就任に伴い、ご指名により、幹事長をおおせ付かりました。今まで、学年幹事として、何かと同窓会とはかかわって参りましたが、今度はいささか荷の重い幹事長として、困惑しています。上

村新会長も同窓会に対していろいろ抱負もあろうかと思えます。その実現に向けて、お手伝いしたいと思えます。歴史のある青山同窓会です。それだけに年齢の差、各方面での活躍の場の広さ、人材の豊かさ、を痛感します。多種多様な同窓生が、かつて同じ学び舎で学んだ事を接点に、一層友好、交流の絆を深められるようにと願っています。総会、会報、その他もろもろ同窓各位の暖かいご協力をお願い致します。

平成七年度
東京青山同窓会総会

東京青山同窓会事務局長
75回 佐藤邦雄



平成七年十一月十日、東京丸の内サンケイホールにて青山同窓会上村光司会長、新潟高校瀧澤強一校長、そして長谷川義明新潟市長を来賓に迎え、平成七年度東京青山同窓会総会が開催されました。東京青山同窓会斎藤伸雄会長(44回)の挨拶に始まり、坂井俊一幹事長(64回)より本年度実行された東京青山同窓会カードの導入、会報発行を資金援助する会報発行の際の広告の採用、その他新しい企画が報告されました。岩原昭会長幹事(53回)からの会計報告、会計計画がそれに続きました。長谷川義明市長(61回)は、激務の中の時間を割いてわざわざ同窓会にご出席、ご挨拶下さいま



した。その後、最年長の36回久保文苗先輩の乾杯の首頭で懇親会に入り、上村光司会長からの祝辞を頂き、瀧澤校長からは、来年着工される新校舎の説明がなされました。東京青山同窓会の悩みは、同期会には多数の参加があるのですが、総会となると動員が悪くなる事で、この問題の解決のため、今回は同会としては、初めてアトラクションとして歌手で新潟出身(清心女子高校/芸大)の花山佳子さんをゲストに招き、ディナーショーとしゃれこみました。「佐渡おけさ」から「マイフェアレディ」

会報委員会の新設

新会長、上村光司さんの挨拶の中にあるとおり、会長は二万余名の同窓会員をつなぐものとしては、年一回だけの総会ではコミュニケーションが行き届かない。そこで会報を充実して、情報交換、交流の場としてほしいと願っておられます。その意を受けてこの度会報委員が設置されました。各クラブのOB会

の幹事役などを中心に人選、十一月二十八日にその準備会が開かれました。集まったのは、以下のかたがたです。

- 67回 戸松秀雄 (バドミントン)
 - 67回 石田瑞穂 (幹事長、山岳)
 - 68回 池主憲夫 (水泳、美術)
 - 69回 榎倉 浩 (校内幹事)
 - 71回 中野 久 (野球)
 - 77回 斎藤繁夫 (演劇)
 - 77回 田辺重幸
 - 79回 石井智裕 (音楽)
 - 80回 阿部哲夫 (ラグビー)
 - 84回 高橋建造 (演劇)
- このメンバーに若手の女性会員を少し補充し、次回夏月号からより親しく、楽しく、読まれる、見られる会報作りをはじめてもらいます。初めて会う人達ばかりですが、それぞれ自分のクラブのOB会のため役として、今まで裏方の苦勞をして来ただけに、人数も多くなり、年齢差の広がった青山同窓会活性化への思い入れも強く、いろいろ活発な意見が交わされま

瀧澤強一校長 文部大臣表彰を 受ける



教育課長、村松高校長をそれぞ
れ歴任されました。

昭和六十二年には、高等学校
教育課参事・課長に就任され、
教育課程、初任者研修、進学指
導等、全県の高次教育の改善充
実に敏腕を振るわれました。

そして、教育次長を経て、平
成三年からは新潟高校長に迎え
られました。その間、母校百周
年記念行事という記録に残る大
行事を挙行されました。また、
新潟高校の明日を思い、六十五
分授業二期制、並びに理教科
設置等に取り組み、実施に至
りました。

さらに、老朽著しい本校の校
舎改築に向けても尽力され、平
成九年度からの現地全面改築が
決まっています。

第三十五代校長瀧澤強一先
生が、平成七年度教育者文部大
臣表彰を去る十一月二十九日に
受けられました。奥様ともども
国立劇場での授賞式に臨まれ、
その後皇居で天皇陛下に拝謁す
る栄に浴されました。

先生の略歴をご紹介いたしま
すと、先生は、東京教育大学を
ご卒業後、若き二十二年間を新潟
高校及び新潟中央高校で教鞭を
とられました。その間、国語
教育は元より、図書館教育にお
ける読書指導の工夫にも取り組
まれました。

その後、県教委指導主事、直
江津高校教頭、新潟市教委学校

なりますが、先生の率直で高潔
な人格と卓越した識見、さらに
抜群の行動力は、いつまでも記
憶に留められるでありましょう。

この度の、先生の文部大臣表
彰を同窓の皆様とともに、心か
らお祝いしたいと思ひます。
(校内幹事 枡倉浩)

小川秋實君の 信州大学学長 就任を喜ぶ 60回 坂井丈夫



胞救出学生同盟」というボラン
ティア組織に参加して活躍した。
引揚者である私は引揚げ途上の
駅のホームで、同盟の学生たち
が兄妹のように笑顔でねぎらっ
た。

昨年六月、同期の小川秋實君
は信州大学学長に就任した。別
掲の写真は学長選挙に当選し発
令を待つ時点で急遽仲間であつ
たときのものである。東大医学
部卒、同大医学部助教授、信州
大学医学部教授、同大医学部
長を経ての栄光である。そして
私はその人格識見及び経歴にか
んがみ、まことに適任であると
思い心から喜んでゐる。彼は単
に勉強ができるだけではなく人
柄が温厚で公平に人に接し、し
かも社会的視野が広く行動力が
ある。昔から自然に周囲の信頼
を得てリーダーに選ばれる資質
があつた。中学高校時代は生徒
会の役員を務めたほか、高城英
雄君たちと外地からの復員軍人
や引揚者の世話をする「在外同

てくれたことがとても嬉しかつ
たが、彼は中二から高校卒業ま
でこの素晴らしい活躍に積極的
に加わり、卒業時は母子寮への
慰問等にも活動を広げたこの
組織の「新潟市地区」委員長を
務めた。本人の熱意と家庭や学
校の理解とバックアップがあつ
たことだ。立派なことである。
私は彼と高一のとき同級になつ
て以来卒業後も厚誼を得、私に
とっては畏友である。大学時代
には当時の社会風潮に依りて
「体制に迎合して安逸に生きる
べきか」「社会改革のため何をなす
べきか」等についてしばしば長
時間熱く語り合ったもので

ある。当時一致していた座標点
は「民主主義を守るために中ソ
迎合の共産党は気に入らないが
反・反共」といったところだつ
た。

信州大学学長に 就任すること なつて 60回 小川秋實

私は昭和二十七年に県立新潟
高等学校を卒業し、昭和三十三年
東京大学医学部医学科を卒業、
同付属病院でインターン、その
後、泌尿器科医の道を進みまし
た。東京大学講師、助教授を経て、
昭和五十三年信州大学教授
に就任、泌尿器科学の研究、教
育、診療に当たってきました。
長野県は私にとって何のゆかり
もない土地ですが、暖かく受け
入れていただき、医学部の教授
として思う存分仕事をすること
ができました。

定年までまだ四年ばかりある
ので、今までの仕事をそろそろ
纏めようと考えていた矢先、同
僚教授の一部から私が学長候補
になるよう強く勧められました。
私自身は、大学の管理運営より
臨床医学の教授としての仕事に
やり甲斐を感じ、また、やり残
している仕事があるので、学長
になることは考えもしなかつた
のですが、あれよあれよという
間に学長に当選してしまいました

緊急性な課題になっている。学長

た。

医学部長の経験はあるものの、医学の世界しか知らない私に、八学部一短大があり、一万人以上の学生が学ぶ総合大学の学長が勤まるのかと不安でしたが、大先輩から「君よりできない奴も勤まったから大丈夫だ」と励まされて気が落ち着きました。多数の教官から推挙された以上、学長職に全力投球するつもりでいます。

ました。今になっても、同級生と話し合っていると学生時代の気分に戻ります。故郷の新潟へは年一回くらい行っています。新潟高校の前を通ると、校舎はいに頑張るつもりです。

スイス・フルートアンサンブル

「笛吹き達」日本公演

スイス発東京経由新潟着

82回 日下部朋子

今、大学には改革の嵐が吹き荒れています。社会からの要請に応じて改革して行かなければ、大学はじり貧になります。教養部廃止、カリキュラム改革など行われ、任期制も取り沙汰されています。このような状況下で、大学をどのような方向へ持って行くかは学長のリーダーシップにかかっています。学長はシンボルではありません。新しい発想をどんどん取り入れ、これを実現するため教職員、学生に賛成してもらうことが必要です。

リストラ旋風下の社会にふさわしく、学長も忙しく立ち働く時代です。大学を活性化、個性化するための全力を尽くさねばなりません。その責任は重いと感じています。

昨年六月東京で新潟高校の同級生に学長就任祝いをしてもらい、同級生のありがたさを感じ

九月末の陽光はまだ暖かく、ガラス越しの柔らかな日溜まりが半袖の腕に心地よい。千葉に向かう電車の中で、長かったような短かったような三年間を振り返ってみる。千葉のある合宿所で八人のスイス人達と一年ぶりの再会が待っている。その八人の笛吹き達が二十五本のフルートを持ってスイスからはるばる日本にやって来る。十月一日の東京公演を皮切りに、新潟、軽井沢、山梨、神奈川とツアーが始まるのだ。

私がスイスのフルートアンサンブル「笛吹き達」に出会ったのは三年前。八人編成というのは世界唯一、その演奏スタイルも編曲も革新的でオリジナリティにあふれており、欧州では沢山のファンを持っている。パッパもモーツァルトも彼らの手に掛かるととても新鮮で「ああ、こ

んな解釈もあったのか!」とはっとさせられる。ヴァイオリンのパートをピッコロが吹き、ベースをコントラバスフルートが刻む。日本人のクラシック観を裏切るような独創性ゆえに、日本公演は不可能だといわれてきた。しかし、彼らの熱意は並大抵ではなく、その情熱に打たれて日本での総合プロデュースを引き受けることになった。

でクラシックを敬遠してきた人達にも気軽に聴いてもらえる結果になり、各地で様々な人たちに歓迎された。これは演奏家と聴衆の両者にとって実に幸福なことだ。本来、クラシックと言えども「音楽」＝音を楽しむことであるなら、楽しみ方は色々あってよいと私は思う。そのためには演奏家自身の頭も柔らかくなくては行けない。笛吹き達は言った。「与えられた環境の中でできるかぎりの事をするだけ。私達は聴いてくれる人がいればどんな所でも演奏する」と。そして演奏が終わると「聴いてくれてありがとう」と聴衆に感謝の言葉を贈る姿に、プロとして最上級のスピリットを感じる。キャリア、実力、知性、三拍子そろった「笛吹き達」を日本に、そして新潟(新潟日報社主催公演)で紹介できたことは私の大きな幸福となった。

もちろん沢山の人の協力がなければ叶わない夢でもあった。中でも青山同窓会の先輩方のご支援は有難く、絶大であった。この紙面をお借りして、心より御礼申し上げます。そして、また宜しくお願ひいたします。

新年明けましておめでとうございませう。「青山同窓会」にかかわって以来、約十五年余り、特に平成四年の「青山百周年記念事業」の際には、敦井前委員長のもとで、副委員長の一人として参画し、無事に成功裏のうちには役目を果たせた事は同窓会の活動のなかでも特に印象に残っております。そんな経験からか、敦井先輩より御指名を受けまして、昨年度より実行委員長をお願い致しました。今までは裏方として、割かし気軽な気持ちでしたが、いざ本番となると緊張もし、又責任の重さを感じています。昨年度の総会ならびに懇親会は七七〇余名の御参集をいただき、会場せましの盛会のうち終了する事ができ、我々、実行委員一同ホッとしたところですが、ひとえに同窓会役員の皆様はもとより会員各位、又先生方はじめ関係の皆様御協力のおかげと感謝いたし、会報紙面をもちまして改めて御礼申し上げます。我が「青山同窓会・総会」は毎年七月の中旬ごろ開催され、参加が定着しております。この実績は何といっても、同窓会の実行運営組織である各期幹事がきちんと整備されている事とスムーズな連絡と幹事の皆様の御協力があつてこそだと思います。同窓会の年中行事とは云え、特に御年輩の会員にとつては年一回の楽しみでもあり、会の締めくくりの恒例の応援歌等の大合唱の際にみられる「青山精神」で結ばれる一瞬は、年令をこえたものを毎回、感動も感じております。しかしながら今後の「同窓会」の維持、発展を考えますと、若手会員の参加と増強なくては現在の運営の状況がむずかしくなつてゆく事も懸念されます。「東京青山同窓会」に於いては毎年恒例の新人歓迎会が、おこなわれているのですが、私共としては、前述の各期幹事会の増強の為、昨年の十月二十七日に80回より90回迄の若手会員を無作為ですが、学校側や当該期間の担任の先生方と御相談の上で各期二名計二十名の方々に御案内したところ十六名の方からお集りいただきました。実行委員会からは私の他に同期の笠原大仙君75回の小嶋富美子さん、82回の栗原道平君、校内幹事の69回榎倉先生、

新春・御挨拶

青山同窓会・総会実行委員長 70回 藤 誠

事務局の三浦さん、それに特別に実行委員である関根彰圓先生に参加していただき、主に委員会からは「青山同窓会の現状」「各期同期会の現状」などを説明したうえで、食事しながら懇談会をいたしました。90 回期の人達というと三十才代の若さですし、はじめ少々、戸惑いもありましたが、お一人ずつ感想や意見を言ってもらいやはり同窓のよしみと云うか除々にうちとけた中、かなり活発な意見や申し入れがありました。夫々の事からについては、省略させていただきますが簡単に集約致しますと、殆どの方は、「青山同窓会」そのものは口こみやボスターなどで承知はしているが、参加したことは無いと云う結果でした。又「同期会」なるものもごく一部を除いて活動がない状況でもありました。しかしながら私共の活動状況の説明に対しては、おおかたの人が興味をもってくれましたし、今後についても参加も含め協力してもらえる感触を得る事ができ、それなりの意義ある会としてなごやかに終える事ができました。今回参加した人達は「各期幹事」として、お集まり願った訳ではありませんが、これを機に彼等を中心し本年度総会の前に御案内をし、できれば、各期幹事と

して委嘱し、所期の目的についてゆきたいと思っております。本年度の総会にすぐ効果が表れるとは思いませんが、「青山同窓会」同じ学舎に学んで遊んだ者同士心の交流「青山」精神の素晴らしい伝統の継承のためにも、私はじめスタッフ一同引きつづきがんばりますのでよろしくお願い申し上げます。

**朋あり相集う
亦楽しからずや
青山三八会**

新潟県立新潟中学校を昭和六年、第38回の卒業生の会を青山三八会と称す。青山の松の緑の校門を去って、遙くも六十有余年を経過し、往年の青陵健児も八十余歳の高齢老境に入り、生存者も既に在校時の三分の一以下となり、その生存者も既に第一線を退き、老化は脚、腰、歯、耳、その他内臓疾患等々に及び、昔日の面影更になし。

しかし老化如何に進むといえども、毎年一回の例会は欠かすことなく、本年も十月十四日午後一時半より、会長田中松一君のホームグラウンド「田中ホテル」に於いて開催した。まあ大きな声では言えぬが、毎度のことながら特別サービスを以て信



「自遠方来不亦楽」と隸書で書いてある。県下第一等の書家、江川蒼竹の書で実に素晴らしい風情のある揮毫である。中学時代漢文で習った論語の開卷第一の文句だけに「朋あり遠方より来たる。また楽しからずや」と当時習ったとおり読む。中に多少漢文にうるさいのがいて「諸君の読み方も誤りではないが、我が国の漢字の近來の大学者、本泉の生んだ諸橋轍次博士は、『朋遠方より来たるあり、また楽しからずや』と読んでおられるよ」と一席ぶって座を賑わす。文字通り楽しく談笑のうちに予定の二時間はアツと言う間に過ぎ、三本締めで再会を約して解散した。

当日の参加者は写真座列右から、田中松一、関屋俊彦、石黒得一、田村勇作、早川拓生、近藤圓、杉垣一男、皆川良二、笹川仁一郎、立列、渡辺義平、吉田昭平、山口五郎久長、後藤林八の老人倶楽部的面々なり。

(M・K生)

**42期生
六十周年の集い
高山雄次郎**

我々は珍しく昭和五年小学校卒業六十五年、青山を出てから



六十年、軍隊から解放されて五十年、と三調子揃った節目が重なり、それぞれが集会を待ち盛大でした。

正に光陰は矢の如しですね。今回はホテル新潟の青山同窓会出席者の意向を最重要視して、十一月二日(木)・三日(金)と群馬県猿ヶ京温泉「生寿苑」として一泊旅行を計画し、上越新幹線上毛高原駅に集結する事に

決め、早くから生寿苑に予約を入れながら各位に出欠の確認を求めました。当初は二十五人出席と云う事で大いに喜んで居りましたが、高年令であるが為に当日直前迄に故障が続出し遂には二十一人と相成りました。

然しながら快晴に恵まれ環境は素晴らしく、十八時より始まった会食は奇麗どころを五人も呼んで大いに盛り上がり延々三時間、一人も座を立たず遂には旅館側より明日の準備もありますので此の辺で御開きを?と頼まれる有様でした。翌三日は午前中は月夜野町焼窯元を見学してから食事処「ふじ」にて御昼の会食をやり、十三時上毛高原駅にて来年の再会を約し解散を致しました。

猶、菊地幹事が病に倒れた為、今井包和氏を起用する事となり御本人も承諾されました。

当日の出席者は次の通りです。

新潟より大野総一郎、羽田軍次、小武内祐治、西山秀夫、薄田潤元、広沢 齊、今井包和、豊岡憲夫、高山雄次郎、県外より東城真佐男、高橋二郎、小笠原一男、岡田龍雄、鳥羽正隆、丸山平次、小泉俊平、田中正吾、広川治、石井嵩、佐々木庫一、片山彦三

卒業五十周年

を祝う

52回 吉田 赴

平成七年度の青山同窓会が七月に開催された。52回生は三十名の参加者があった。

誰言うとなく「俺たちは卒業して五十年目の年だよな」という声が出た。「何かやろう」という気分を察した幹事長の筑波君が、幹事と相談して仕事に着手した。案内状に応じて六十名を越す級友が、近在の者は勿論、秋田から、千葉から、横浜からと、出席する旨を届けてくれた。

十月二十八日、秋晴れの夕暮れどき、閑静さと雅趣をそなえた会場（行形亭）に見おぼえのある顔が集まって来た。

五十年ぶりという者もあって、しばらく見詰め合って「やっばり君か」と確認する声や、昔の面影をそのまま残して、「やあ、久しぶり、元気か」と肩をたたき合ったり、賑やかな受け付け風景が続いた。

私たちの卒業は、昭和二十年三月、終戦の年である。三年生の頃から勤労動員が多くなり、五年生の時に、大部分が名古屋へ、一部は長岡へと生家を離れていった。母校も、いつしか遠



た。

戦中にもかかわらず、我が母校は、自由な校風に満ちあふれていた。名校長梅田三郎先生のもとに、個性豊かな先生が馳せ参じ、人間らしい教育が行われていたと信じている。今日、もしもこのような学校があるならば、「いじめ」や「不登校」など起こることは断じてないと思う。

夜も更けた。名残りは尽きない。しかし閉会のときは遠慮なくやってきた。

「玲瓏の天あぶぐ時、胸颯爽の意気に充ち……」

なつかしい校歌の声がひびきわたった。次の機会を約束し合せて、気持ちのすっきり若がえった強者たちは、新潟の街の灯にさそわれて消えていった。

東京59期会

開催報告

園城英二

くなくなった。卒業式は、いつ、どこで行われたか、私の記憶にはない。卒業を待たずして「戦さの庭」へ、志していった仲間も少くない。

四十六名の物故者に黙禱を捧げて総会に入った。東京在住の斎藤泰五郎君の音頭で乾杯。髪は白く、或いは頭の光を増した熟年どもが、すっかり若がえり、熱気を帯びて盃を重ね、語り合っ

たまたま東京青山同窓会の総

会が開催される少し前であったので、同会への参加の呼び掛けと、新たに発行される同窓会カイドの説明とが行われた。

又新潟からの出席者より、近況報告やら母校の建築計画等の話もあり、会は例年になく盛り上がりを見せた。来年は卒業四十五周年でもあり、新潟東京合同で温泉一泊で開催しては等々、色々な話題に花を咲かせていた。最後に校歌並びに応援歌を高らかに合唱しお開きとなった。

が、それで終わるはずもなく十数名は近くのスナックへ集合し、二次会となってカラオケ等で、自慢の咽を披露していた。

今回より茂泉幹事からバトンタッチした新米幹事ですが皆様のお陰で盛大なる同期会が出来ましたことを感謝して報告を終わります。

出席者指名

伊佐 修 市川鉄夫
関根彰圓 以上新潟より
飯島正夫 池田正文
梅沢貞雄 及川 陽
岡田 久 奥村繁樹
園城英二 金巻 久
栗林貞一 小城一広
小林栄作 小林謙二
小村幸久 茂泉喜彦
洪木幸三 関野光弘
高橋正利 田中七郎

中野清治 納谷喜郎
西野 武 花井 進
牧 泰彦 皆川 潔
安田 隆 山崎徳左衛門
山田陽一 若木 滋



第59期

同期会散見

新会員発掘

平成七年七月一日(土) ホテルサンルート新潟(新潟駅前東大通り)で開催。

伊佐君、渡辺君、市川君ら幹事団に迎えられる。この期は青山同窓会総会はじめ、よく集ま

る。一昨年は瀬波、昨年は湯沢温泉。木村市民病院院長就任を祝う会もあった。今回は申し込みは四〇名あったが、日が良過ぎたか、当日は三二名になったが、依然盛況であった。

昨年、藤田、田辺両先生を迎えた湯沢温泉の同期会が盛り上がり、「来年もまた集まろうや」ということで、今回は宮田兼好君の黒崎町議会議員のお祝いなど諸々を兼ねて開催された。青山同窓会総会とは少し違うメンバーが集まった。東京同窓会同期会から園城英二君が代表でわざわざ参加してくれた。

校歌斉唱、物故者への黙禱。同期の物故者はすでに三三四名中二〇名を越える。昨年九月以降また三名の物故者があった。いずれも突然倒れたとのこと。まだ早すぎる。お互い用心、用心。

ついで幹事代表伊佐君のあいさつと、報告。その中で、「われわれの年代になります同窓生は、年々減る一方のはずであります、おめでたいことに、今回一名の増がありました。」と小野寺宏君を紹介。同期生の発見である。

思えば我々の期は旧制中学へ入学、その年の夏終戦。新制中学、新制高校へと移行した終戦を挟んだ大変動を六年間共に本

校で過ごしたのだ。その中で中学三年で修了した同級生もかなりいる。そのうちの一人ということだ。満場の拍手で迎えられて自己紹介。彼はおでこの出た、ほったの赤い少年であった。「見覚えがある」、「憶えがない」の話が続く。百周年記念の同窓会名簿にはやはり彼の名は載っていない。ほかに登録されていない人がまだいるように思う。

伊佐幹事の報告が続く。幹事会での校舎改築についての学校長の説明を披露。卒業後、火災で木造校舎が消失、現在の校舎にはあまり親しみのない面々ではあるが、しみじみと時の経過を感じ、しばし沈黙。鈴木同窓会長辞任の予定に話がおよび、この辺で同期幹事を交代したいなどと意外な言葉に会場は再びガヤガヤ。

園城英二君のあいさつ乾杯。あとは、例によって「あの頃の話、健康法の話」。終戦後、米軍の命令で廃止あるいは活動停止を受けた部がある一方、野球部はじめ多くの部が復活、ラグビー・サッカー・ハンドボール・フエンスン・レスリング・ボクシング・排球など統々と新しい部が誕生した。新制高校になってから、レスリングの飯塚実君をはじめ、この期には新しい部

の中心になって活躍した人たちが多く。それだけに、出場メンバーが足りなくて臨時部員にしたり、コメをもって遠征したり、失敗談や苦勞話、裏話にこと欠かない。

その間にビンゴゲームがはじまり「寒梅」、「八海山」の景色に会場は大いに盛り上がった。宴たけなわ、渡辺初男君が伊佐幹事長の留任決議の動議を提案。満場一致で可決。本人は所用で中座中だったので「無効」を主張。二次会もその件が話題の中心。この同期会がいつも盛会なのも伊佐君が手間暇惜しまず声をかけてくれるからで、幹事長は彼をおいてない。

「おめえさかいねてば。ご苦勞だが、今まで通りやってくれや」というのが全員の本音だった。(広野 樹記)

青山六二会 卒業四十周年 記念大会の記 (九月二十二日 鍋茶屋)

卒業三十周年は「行形亭」で、三十五周年は湯沢グランドホテルでと節目毎に特別大会を開いてきた。毎年の例会や夏の総会で各自の意向を調整統合しつつ、「今回はやはり鍋茶屋で……」という事で百名を目標としたが、



これは少し甘かった？ 連休前日がよすぎたか、まだまだ責任あるポストで忙しい日々を送っているのか、メ切的八月末日過ぎてても百名以上が未返答の状態

三先生も出席下さり、久しぶりにお元気な講話を伺った。全員の一分間スピーチもやり、新鴻きいどころの踊りもあり、最後は横田美昭君の指導で旧新両校歌、応援歌を熱唱してお開きとなった。その後はそれぞれのグループに別れ、久しぶりの新鴻の夜を楽しんだはず。元氣組は翌日ゴルフに励んだ？

四十五周年まで待てないから還暦記念特別大会をやらうという声も強く、検討中です。「また元氣でお会いしましょう！」(Y・A)

で世話人はやきもき。しかし、はるばる九州からの山本潤一君をはじめ昔のマドンナお嬢様方五名も含め丁度五十名の出席が固まった。岡田正美、横山貞雄、阿部正

70期(高十四) ゴルフ大会 村田紀夫 (通称70回新潟マスターズ)

卒業二十年を機会に、毎年ゴルフ大会を開こうという話題が出て、家族から相手にされなくなり、体力も気力もなくなりつつあり、趣味と言えはゴルフという連中が多く、すぐに話はまとまり、私の記憶が正しければ、確か今年で十二回目を迎えることとなりました。

六月四日、アイビスG・Cで開催となり、全員新潟駅近くの駐車場に集合し、雲行きのあやしい中をバスにて出陣しました。案の定、出陣後十五分位してか

ら、どしゃ降りとなると、「ホソマにゴルフできるんかいな」と言う声があちこちから起り、「誰か、普段の素行の悪いヤツが居るはずだ」と、責任の押しつけあいとなりました。ただし、ことわっておきますが、筆者は、品行方正でありまして、責任はいついありませぬ。しかしながら、一時間少しのバスの旅の後、ゴルフ場に到着しますと、雲天ではありますが雨は上がり、まずまずの状況となりました。そうなるも現金なもので、「俺は晴れ男だ」、「俺の日頃の行いが良いせいだ」とか言い出す始末で、いったい先程のバスの中での話は何なんだ!!

とにもかくにも無事にスタート、出場者十五名。スコアが悪ければ、クラブがゴルフ場の責任で腕のせいではないとばかりに、雨上がりのフェアウェイを



耕し始めましたが、スタートと共に、足の引つ張り合い、ほめ殺し、イヤなこと同期生とは良いものです。一応賞品をつけることになり、我も我もと、優勝にねらいをつけました。その中で、優勝の呼び声高い増田君(通称月岡シングル)、彼の欠点は女性に優しい(弱い)ことでしたので、紅一点の出場者である山口さんをパーティーに組み入れましたところ、安の定、幹事の思惑通りの結果とあいなりました。

順位は、以下の通りです。
優勝 村松 信輔
二位 金子 健三
三位 高頭 泉
B・G 高頭 泉

尚、ペリア方式で試合を行ないましたので、スコアは、本人の名誉とプライバシー保護のため、あえて記載致しません。

コンペ終了後、別座敷で表彰及び懇親会へと移行。その席で「どうも一つまとまりがない、これは会長が居ないからだ、会長を決めようではないか」と提案があり、全員一致で齊藤忠正君を、半ば強引に、半ばおどし

で、会長と決定致しました。連絡幹事については、持ち回りで優勝者とB・Bに当たった人とし、次回の幹事には、村松信輔君と鷲頭宏二君に決まりました。

次の開催地及び開催日は、会長の示唆によるとのこと。

今回もわざわざ東京より、湯川・本間両君が出席して、大会を盛り上げてくれました。(感謝・感激)次回もにぎやか(騒々しい)で、楽しい大会になることはまちがいありません。

尚、「俺もゴルフできるのに、何故連絡をよこさん」と怒っておられる方がおられましたら、会長又は連絡幹事まで御一報をお願いします。又今回の出場者を記載しておきますので、どなたに御連絡して下さいもけっこうです。よろしく。

出場者(五十音順)
金子健三・近藤光雄・斎藤忠正
高頭 泉・弦巻 烈・馬場武夫
本間裕弼・増田勝弥・松原 紘
村田紀夫・村松信輔・山口セツ
湯川真人・若槻一則・鷲頭宏二

発展するか 59回 囲碁の会

七月十四日の総会は盛會裏に挙行され青陵健児らの意気は《ますらお》の歌声とともに面白い上がった。久々の再会とお互いの健勝を喜び合う熱気は中々めあたりで冷めるはずもなく、我々59回も御多分にもれず二次会へと席を移した。「幸寿

司」での宴は伊佐幹事の設営よろしく大いに弾んだことだった。席上誰からもなく「今度碁を打とうや」の声が上ががり、たちまち賛同多数で決まってしまう。この手の話になると59回は無類の結束を示すのだ。しばらくは「誰々が打つ」「誰々が強い」の囲碁談義に花が咲いたが、涼しくなったら何はともあれ一回目をやってみようと言うことで当日はお開きになった。

忘れるともなく忘れていた初秋のある日、伊佐幹事から「碁の件ネー」の電話が入った。日取りと場所のことだった。伊佐君はもとより五十嵐哲夫君や市川鉄夫君等も骨を折ってくれたのではなかったかと感謝している。

日時は十月二十一日一時半より、会場は古町六のこれまた59回渡辺幸夫君経営するところの青山囲碁クラブ、二次会はおなじみの「幸寿司」と決まった。第一回でもあり召集告知もあまり無理をせず発起人会という雰囲気です。表彰も前記渡辺君寄贈のカップ(かなりいいものだが従って持ち回り)の争奪のみと言う骨子で開催した。

参加者は級位者から六段までと多彩であったが、対局が始まれば技量も差もトシのこともすっかり忘れ、組んずほぐれつ大激戦の数局、数時間であった。拝見しているとある者は果断を示し、ある者は老巧であったり、緻密、清廉、堂々、剛毅、とそれぞれの特徴が各人の歩いてきた人生を感じさせたと言えぶがち過ぎであるうか。

結果は三勝者が三名となり、谷博之五段(六段格?)は遅参を理由に辞退、白根忠二段と菊地晴彦三級の抽選の結果くだんのカップのリボンの名譽ある第一回優勝者名は菊地と書かれることになった。

さて二次会だが、菊地君はここところ仕事や祝い事などの連続で多忙を極め出席しにくかったところを繰り合わせての参加だったそう、奥方にも面目を施せるのではないかと、往年のレスリング世界チャンピオン飯塚二段も碁盤の上では立ち技は強いけどマットになるとどうなんだとか、安倍二段が折角決断してこの冬南極に出かけるといふのに、暴風圏の海が荒れる話とか話題は尽きるところを知らなかった。

第二回目は広く同好の士に呼びかけ盛大に開催しよう。またほかの年次の同窓との親善囲碁会も検討しよう(受けて立ちますよ)。

などの方向が決まり友情の温もりを胸に帰路に着いたのだ。

熱戦風景のスナップがなかったことが唯一悔やまれる碁会ではあった。

参加予定で欠席の五十嵐哲夫君、市川鉄夫君まことに残念、参加者名のみを末尾に記す。

安部邦造、伊佐修、飯塚実、川上博、菊地晴彦、佐藤進、白根忠、谷博之、藤由学 (佐藤 進記)

ゴルフ同好会 発足

鈴木正二顧問が副会長時代に始まった青山ゴルフ会(鈴木杯)もこの度、発展的に「青山OB会」と改称し、同好会として発足することとなりました。会員資格として、年会費一、〇〇〇円を収めていただくこととし、

会員申し込みをした人いろいろご案内をし、ゴルフを通しての親睦、交流を図って行くことになりました。既に多数申し込みあります。新たにご加入希望の方は、同窓会事務局宛てに申し込んで、会費を納めてください。春からコンペを行います。

事務局、世話役として、75期の富山修一、加藤勝士、堀 一の3名がお手伝いします。

ハイティーン水泳

新中・新高②

60回 平田大六

39 女生徒達と同宿

達の声だ。

新潟中央高校水泳部の遠征宿へ同宿させてもらっていた青柳淳夫(現姓山本60回)、江口良助(61回)と私の三人は、女生徒の圧倒的な食欲の前で、こそこそ夕食を終えた。宿は普通の民家で、高校生と云っても女だから、次々に私たちの空の食器を持って台所へ立っていった。そこでもやはりガヤガヤガヤ。早い者が台所から帰ってきて、あんたたちフトン敷くすけドケレてえ、と慣れたものである。夕食を食べた部屋は、女生徒の寢室だったのだ。

もう居場所もなくなった私たち三人は、来た時にあてがわれた玄関の右手のどの部屋にもどった。

女生徒の部屋に大きな蚊帳がつけられてゆくのが見える。やがて下級生たちがキャッキョットとさわいでいるのがきこえてきた。調子に乗った彼女たちが、フトンの上に立ちあがって、踊るマネをはじめたのだ。フザケてなんて！するどい上級生のアネゴ

夏の暑い夜だ。それは、夢とも現実ともつかない光景の体験だった。青柳、江口、私の三人は、うつろな、しかも息苦しい小部屋の中で、お互い何を話して合っていたのか、今は記憶に残っていない。(つづく)



母校キャンパスより

◎来年度、普通科九学級理科一学級の募集となる

現中学三年の生徒数減により、来年度の本校の生徒募集は普通科九学級(三百六十名)、理科一学級(四十名)となり、普通科一学級減となります。

二年は普通科十学級と理科一学級の構成です。

◎六十五分授業・二期制について

前号でもお知らせしましたが、今年度から六十五分授業・二期制を実施しました。五十分授業から六十五分授業になり、職員も生徒も大分戸惑いしましたが、一ヶ月、二ヶ月経つうちに慣れて、授業の内容、密度が充実し、余裕のある授業展開ができるとの職員の声がありました。二期制制については、夏休みや冬休みをそれぞれ前期、後期に抱え込みながら学習させて、学力を向上させるべく研究、努力しています。

授業の充実、生徒の学力向上を目指し新体制に入りました。しかし、それに伴う改善すべき点がいくつかありますが、少しでもマイナスを少なく

くすべく検討を加えています。最後に、校外模擬試験において、各学年が成績を伸ばしています。これも新体制の影響もあるのではと思っています。

◎理科科生徒、潑刺として学校生活を送る

本年度から理科科が設置され、四十名の生徒が入学してきました。学習に部活動等に精を出していますが、学習では目覚ましい成果が見られています。昨年の夏休みには、理科科の特設科目の一環として、一泊二日で尾瀬方面へ野外観察(生物観察)の研修に行っていました。生徒の間では好評でした。また、同じ時期にコンピュータについて学習しました。大学の先生(新大理学部 田中教授)から概論の講義をお聞きして、その後新潟市内の専門学校で実習しましたが、これまた生徒に好評でした。長期の休みを利用して、理科・数学の実習や研究をして科学の方法を学び、研究の楽しさを体験してもらおうというものです。また、学校行事等で普通科生徒と交

◎校舎改築について

本年度は基本設計の年で、新校舎の大枠を決めるべく作

業も佳境に入っています。来年度は実施設計の年となりませんが、細かいところまでの図面を作成し、九年度からの校舎改築に備えます。また、来年度の後半になるとグラウンドに仮設校舎が建てられます。九年度スタートと同時に校舎棟の建設が始まり、十年度まで建築が続きます。十一、十二年度に体育館を建設し、十三年度には、プール建設やグラウンド整備をして、全て校舎改築が終了の予定です。

概略、改築予定をお知らせいたしました。同窓の皆様方にご協力、ご援助をお願いする時があらうかと思いが、よろしくお願い申し上げます。

(校内幹事 柄倉 浩)

後輩の主な大会成績

◎ラグビー部

・NHK杯 優勝
・花園全国大会県予選 準優勝

◎空手部

・全国高校空手道選抜大会県予選会 女子団体(型)四位(北信越大会出場)

◎柔道部

・BSN高校柔道選手権大会 個人軽量級三位 高野剛

◎フェンシング部

・秋季県大会 女子団体優勝、男子団体三位、男子個人フルール優勝 川口太一郎、同エペ三位 川口太一郎、個人女子フルール優勝 本多茜、同二位 今井明香、同三位、荒木淑恵、個人女子エペ一位 高橋垂矢子、同二位 湯沢美樹、同三位 荒木淑恵

◎陸上部

・県高校新人大会 男子八〇〇M優勝 荒城信介、女子八〇〇M二位 太田理恵、女子走中跳三位 和田麻井子
・福島国体 男子八〇〇M予選二位 荒城信介、同準決勝六位 荒城信介

◎軽音楽部

・吹奏楽コンクール高校の部 県大会及び西関東大会 いずれも金賞
・県アンサンブルコンテスト サックス四重奏 金賞 金管五重奏 銀賞

◎放送部

・NHK杯 創作ドラマ部門一位、ラジオ課題部門四位
・第十五回QRK杯学校放送コンクール ラジオピクチャー部門一位(今年八月の北海道全国大会に出場予定)

◎囲碁部

・県総合文化祭囲碁大会兼全国高校囲碁選手権県大会 団体戦 男女優勝、個人戦 準優勝 大山泰幸 (団体戦は全国大会へ出場)

・県高校囲碁秋季段位認定大会 Aブロック優勝 塚崎孝、Bブロック優勝 渡辺史子、Cブロック優勝 源川裕子

編集後記

☆明けましておめでとうございます。今年一年、よき年でありますよう祈念致します。

☆昨年の総会で、惜しまれながら鈴木正二会長が退任されました。百周年記念事業の数々を挟んで、四期八年間本当にご苦労様でした。今後も顧問として、ご指導をお願い致します。

☆新会長の上村光司さん、幹事長、副会長と同窓会と長く、深く付き合いをされて来た方です。同窓会への熱い思いを大いに発揮してのご活躍を期待しています。

☆役員の方で、ご退任の方、新任の方それぞれのご挨拶で盛り沢山です。ご苦労様でした。そして、これからご苦労様です。☆滝沢校長の文部大臣表彰受賞、60回小川秋實さんの信州大学学長就任おめでとうございます。

☆東京青山同窓会も新しい試みで、総会への若い人の参加を呼びかけています。新潟でも、総会実行委員会を中心に、若い人の意を汲みながら新しい同窓会の在り方が模索されています。

☆上村新会長は会報の重要性を説いておられます。新設された

☆今号から紙面の大きさがA4判に変わりました。もっと大きな文字でという希望もありました。活字の大きさはそのままです。長文の原稿が多く、いつものことながら編集に苦労しましたが、ご容赦お願い致します。

☆一年一度の総会だけでなく、趣味を通じて新たな交流の場をと、ゴルフ同好会、囲碁の会などの誘いがあります。その世話役は大変でしょうが、会員の為に奉仕する喜びを十分味わっていただけることでしょう。楽しい会がたくさん増えることを期待しましょう。そして、そういう集いの楽しい記事が寄せられるのを待ちたいと思います。

☆各期幹事からの報告が沢山のす。クラス幹事のしつかりしている期は毎年楽しそうですね。六十周年、五十周年へとその集まりがいつまでも続くよう願います。

☆総会で承認された決算、予算は、紙面の都合で、次の号に掲載します。

(石)

平成七年度青山同窓会会費納入者名簿

(4月より12月まで納入済みのもの)

未納の方は3月までに納入下さるようお願い致します。
1口1,000円できるだけ2口以上でお願い致します。

(郵便振替口座 0065-7-4455 青山同窓会)
(第四銀行学校町支店口座 0275210 青山同窓会)

- List of members and their family names, organized in columns. Includes names like 介二雄雄, 有賢直通, 澤原田, etc.